

現代文芸コース 春季大学院進学説明会



【現代文芸コースとは？】



- 現代文芸コースは、博士後期課程をもたない修士課程のみからなる点を特色とする。
- 現代の文芸の諸相を幅広い視野から学際的に横断的に学べるようなカリキュラムが用意され、文学を含む文化現象への多様なアプローチ方法にふれることができる。

例) 世界文学やジェンダー研究の視点から人間の文化的営みを総合的に考察することによって、現代の文化・文学の多層性をよりよく理解するための学問的方法や批評的思考を獲得することができる。

- 本コースの授業の対象は、小説、詩、批評、翻訳論、メディア論など多岐に及ぶ。この学問的環境のなかで各学生が、アカデミックな視点・学術的観点を身につけ、様々な学問的枠組みや方法を尊重しつつ、同時に自由に柔軟に、みずからの問題意識を深化発展させ、新たな時代に対応できる豊かでしなやかな知性と想像力を養うことを目指す。

【現代文芸コース教員紹介】



マヌエル・アスアハラモ先生

現在の専門分野：比較文学と翻訳論、世界文学論、世界におけるラテンアメリカ文学、日本文学の流通



草野慶子先生

現在の専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学



市川真人先生

現在の専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで



小沼純一先生

現在の専門分野：現代フランス語圏文学、音楽文化論、音楽・文芸批評



岩川ありさ先生

現在の専門分野：フェミニズム、クィア批評、トラウマ研究



松永美穂先生

現在の専門分野：現代ドイツ文学、翻訳論



小野正嗣先生

現在の専門分野：現代フランス語圏文学、世界文学論、文芸創作



堀江敏幸先生

現在の専門分野：創作論、読書論、フランス現代文学



マヌエル・アスアヘアラム先生



専門分野：比較文学と翻訳論、世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、日本文学の流通

(2022年度春学期 現代文芸演習)

副題	20・21世紀の世界文学研究とポストコロニアル文学論
授業概要	この講義では、世界文学論(World Literature Studies)におけるポストコロニアリズムが課題として残っている現象について考えていく。 『オリエンタリズム』(1978)の著者エドワード・サイドが『イスラム報道——ニュースはいかにつくられるか』(1994)などで示したように、テレビやラジオなどといった現代のメディアを通して<世界>が表象されている以上、その<世界像>が、自国の文化空間で優越的な立場から君臨する様々な言説によって影響せざるを得なくなっているという。こうして、アメリカから見た中東だけではなく、例えばヨーロッパから見たアフリカや中国から見たアメリカなど、他国の文化を同化し得ない<他者>のものとする傾向があり、中立性をなくす危険が常に伴っている。一方では、21世紀が明けてから文学研究において一層盛んに議論されている世界文学論は、グローバル時代における自国文学と他国文学の関係について横断かつ学際的に考える試みとして生まれてきたのである。しかし、2010年にAamir Muftiが発表した論考“Orientalism and the Institution of World Literatures”の中ですでに議論しているように、現在、世界文学について考えるためには、ポストコロニアリズムが残してくれた課題を忘れてはいけないという。したがって、この講義では、世界文学論を成立させた比較文学者のデヴィッド・ダムロシュ、パスカル・カザノヴァ、フランコ・モレッティなどが提案した世界文学論の基礎知識を得た上で、エドワード・サイドをはじめ、ガヤトリ・C・スピヴァク、ホミ・K・バーバ、アーミル・マフティの論考も取り入れる。この講義では上述の枠組みを用いながら、植民者と被植民者という不平等な関係の中で生まれる世界文学作品について考える。授業の初めに上記の理論的な枠組みを説明してから、毎回世界各地で書かれたポスト・コロニアル文学の作品を受講生と読み解いていきたい。
到達目標	受講者に文学作品をポストコロニアル的に読むノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からのポストコロニアル文学の魅力を感じると共に、今もなお世界で必要とされているトランスカルチャー的な理解とは何かを考える授業にしたい。

(2022年度秋学期 現代文芸演習)

副題	世界文学研究における「グローバル・イングリッシュ」という問題
授業概要	本講義で近年の翻訳研究におけるグローバル・イングリッシュGlobal Englishの問題を受講生たちと考えていききたい。具体的に、Lawrence Venutiの<i>The Scandal of Translation</i>、水村美苗の『日本語が亡びる時:英語の世紀の中で』、Aamir Muftiの<i>Forget English!: Orientalisms and World Literatures</i>、Rebecca Walcottの<i>Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature</i>、そしてMichael Emmerichの<i>The Tale of Genji: Translation, Canonization, and World Literature</i>からの抜粋をゆっくりと精読し、批評的に考える。これらの著書にある文学理論を把握しながら、翻訳の諸問題を念頭に置きながら文学作品の解読も実践する。後半では英語圏における村上春樹とその現代日本文学のイメージ形成をケーススタディとして取り上げる。
到達目標	受講生たちに海外の文学作品を翻訳研究の視点から読み解くノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からの文学を日本語や、その他の言語で読むにあたって、トランスカルチャー的な理解とは何かを考えるようになってほしい。



市川真人先生



専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで

(2022年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。 ※対面ハイフレックスで行いますが、最大で7回、moodleを利用するオンラインでの授業を行います。
到達目標	修士論文と同等の批評テキストの完成
事前・事後 学習内容	学期冒頭に定める発表順に応じて、発表者は発表内容を事前に提出・共有し、発表者以外の者は、発表者がとりあげるテキスト等を読んでおくこと。
授業計画	毎回、発表者を決めて実際の（広義の）批評文を執筆し、輪読のうえ講評および討議を行なう。
成績評価	発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。
備考(春)	※対面ハイフレックスで行いますが、履修者とも協議のうえ、最大で7回、moodleを利用するオンラインでの授業を行います。詳細は、初回授業（教室で行います）で伝えます。
(秋)	オンラインまたはオンラインとオフラインを併用して授業を行います。対面の場合でも、ハイフレックス形式で同時配信を行いますので、履修者各自が選択しての受講が可能です。



岩川ありさ先生



専門分野：フェミニズム、クィア批評、トラウマ研究

(2022年度春学期 現代文芸演習)

副 題	フェミニズム、ジェンダー批評、クィア批評
授業概要	この演習では、竹村和子『愛について：アイデンティティと欲望の政治学』（岩波現代文庫、2021年）を読み、フェミニズム、ジェンダー批評、クィア批評の理論や知識について学ぶ。
到達目標	(1)フェミニズム、ジェンダー批評、クィア批評の重要なトピックについての知識を身につける。 (2)テキストを精確に読み、具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。

(2022年度秋学期 現代文芸演習)

副 題	フェミニズム、ジェンダー批評、クィア批評
授業概要	この演習では、村山敏勝『〈見えない〉欲望へ向けて クィア批評との対話』（ちくま学芸文庫、2022年）を読み、理論や知識の応用や展開を目指す。
到達目標	(1)テキストを精確に読み、具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。 (2)フェミニズム、ジェンダー批評、クィア批評を自らのテキスト分析に応用できる。

事前・事後 学習内容 (春・秋)	担当者は、本文で言及されている思想家や理論的背景について関連書籍や文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備すること。 受講者は、テキストを精確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。
------------------------	---



小野正嗣先生



専門分野：現代フランス語圏文学、世界文学論、
文芸創作

(2022年度春学期 現代文芸演習)

副題	英語圏のエッセイを精読する。および翻訳の実践を行なう。
授業概要	文学や美術について書かれた英語圏のテキストを全員で精読する。 毎回、担当者を決めて、指定された箇所について発表する。その発表を受けて全員で議論する。 指定された部分の訳文を作ることが要求される場合がある。その場合は、訳文についても全員で議論する。

(2022年度秋学期 現代文芸演習)

副題	翻訳について考える。
授業概要	翻訳について書かれた英語圏のテキストを全員で精読する。 毎回、担当者を決めて、指定された箇所について発表する。その発表を受けて全員で議論する。 指定された部分の訳文を作ることが要求される場合がある。その場合は、訳文についても全員で議論する。 また、履修者のそれぞれに準備している自らの修士論文について適宜発表を行なってもらう。

到達目標 (春・秋)	英語のテキストを精読し、内容を正確に理解する。 理解した内容を、各自の問題意識につなげる。 他の受講生の読解や発表について建設的なフィードバックを行なう。
---------------	---



草野慶子先生



専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学

(2022年度春学期 現代文芸講義 1)

副題	松浦理英子の『最愛の子ども』を読む
----	-------------------

(2022年度秋学期 現代文芸講義 2)

副題	松浦理英子の『犬身』を読む
----	---------------

授業概要
(春・秋)

春学期の現代文芸講義1では、松浦理英子の『最愛の子ども』（2017）を、秋学期の現代文芸講義2では、同じ作家による『犬身』（2007）をともに読み、考察し、批評します。

- 1) まずは作品そのものを読み、ディスカッションを行う
- 2) すでにある本作に関する書評や批評を読み、その考察を行う
- 3) この過程を経てかたちをなす、受講者それぞれの作品論を共有し、批評しあう

の順序で進行します。

担当者の専門はロシア文学・比較文学ですが、近年はジェンダー／セクシュアリティ研究に関心を持って取り組んでおり、私からはフェミニズム批評に依って立つアプローチを共有するつもりです。とはいえそれに縛られず、受講者各人が自由に、それぞれの観点や作品への回路を提示すること、結果としてともに作品を読む私たちの体験がより豊饒なものとなっていくことを期待しつつ、授業を進行します。

到達目標	文学作品を学術的に読み、批評する能力の獲得
------	-----------------------

事前・事後 学習内容	指定された作品と書評・批評についての口頭発表の準備 期末までに完成させる作品論あるいは批評 他の受講生の発表や批評へのフィードバック これらが事前・事後学習として必要になります。
---------------	--



小沼純一先生



専門分野：現代フランス語圏文学、音楽文化論、
音楽・文芸批評

(2022年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実際に批評をおこなう心身があり、そのかたちとしての「批評文」がある。その双方を考えてゆく。自らの生活のなかで、さまざまな批評的实践が「自然」化することをめざす。たとえば石をなげて、その波紋がどう生じるか。出席者は水であり波紋であり、石は作品や教員のことばである。そのインタラクティブなありようを毎回到に生かしたい。
到達目標	自らの生活のなかで、さまざまな批評的实践が「自然」化することをめざす。
授業計画	発表とコメントが中心となります。
教科書	特になし。
参考文献	随時指示する。
成績評価	参加度が反映します。
事前・事後 学習内容	演習で用いるテキストについて読み、思考し、コメントができるようにしてください。
備 考	自ら文章を書き、参加者に読んでもらい、講評する。 自分が発表するだけでなく、他者のものを読むことに意味がある。 そのため、出席は重視する。



松永美穂先生



専門分野：現代ドイツ文学、翻訳論

(2022年度春学期 現代文芸演習)

副題	翻訳とアダプテーションについて
授業概要	日本では明治以降、世界の文学が次々と翻訳紹介されるようになったが、その過程でオリジナル作品の翻案もまた盛んに行われた。この授業ではまずエミリー・アプターの『翻訳地帯』を抜粋で読み、日本近代文学における翻訳とアダプテーションについて考えるほか、翻訳行為そのものの変化についても考察していく。
到達目標	アダプテーションとは何か、また日本近代における翻訳がどのように行われてきたか、具体的作品にあたりながら考える。
事前・事後 学習内容	発表の準備はもちろん、共通の課題についてテキストを持ち寄ったりするので、ある程度の予習が必要となる。

(2022年度秋学期 現代文芸演習)

副題	翻訳と創作の関係——森鷗外と村上春樹を中心に考える
授業概要	2022年は森鷗外没後100年でもある。鷗外の翻訳作品と創作との関わりについて考えるほか、現代作家のなかで特に翻訳の多い村上春樹との比較を行う。そのほか、近現代の日本の作家と翻訳行為との関係について考察する。
到達目標	森鷗外、村上春樹、それぞれの翻訳作品に触れるとともに、その翻訳が彼らの創作にどのような影響を与えているかを探る。また、彼らの翻訳観も比較する。
事前・事後 学習内容	共通論文や担当する発表論文の読み込み、さまざまな下調べなど。



堀江敏幸先生



専門分野：創作論、読書論、フランス現代文学

(2022年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	ロジェ・マルタン・デュ・ガール『チボー家の人々』を読む
授業概要	ロジェ・マルタン・デュ・ガール (Roger Martin du Gard, 1881-1956) の大河小説『チボー家の人々』(<i>Les Thibault</i>) を、山内義雄の邦訳を用いて完読を目指す。1922年に刊行された第一部『灰色のノート』にはじまり、1940年に刊行の『エピローグ』で締めくくられるまでのあいだに、マルタン・デュ・ガールは1937年、『一九一四年夏』によってノーベル文学賞を受賞しているが、フランス本国でもかつてのようには読まれていない。この大河小説の精読を通して、20世紀前半の長篇小説の構造と技法についての考察を深め、同時代文学との関わり、21世紀の世界文学への通路を探る。まず、2021年度までに読み継いできた各巻の内容を振り返ったのち、最後に残された『エピローグ』を読み解き、第1次世界大戦勃発に「巴里」で遭遇した島崎藤村の散文に触れる。なお、本演習は、参加者の発表による輪読形式で行い、全15回のうち前半はリアルタイム配信によるオンラインを予定している。授業の進行状況に応じて変更が生じた場合は、事前に周知する。
到達目標	長編小説の構造と細部の照応を確認しつつ、21世紀における本作の現代性を理解する。また、各自の研究主題と読解テキストとの照応をつねに意識することにより、専門分野にとらわれない広い視野を確保する。
事前・事後 学習内容	2021年度の演習の継続となるため、学期前に全巻通読しておくことが望ましい。発表者は当日までにレジュメを作成し、参加者に配布する。

【過去の入試問題】

早稲田大学入学センターの以下のサイトで過去3年分の問題の閲覧が可能です。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

(大学院入試情報→過去の入試問題→該当年度の文学研究科 修士課程)

The screenshot shows the Waseda University Admissions Center website. The header includes the university logo, 'Admissions Center 早稲田大学 入学センター', and navigation links like 'MyWaseda', 'お問い合わせ', and 'サイトマップ'. A 'Quick Link' dropdown is on the left. The main content area has a green background with a white navigation bar. The '大学院入試情報 For Graduates' menu is open, showing a list of links. The '過去の入試問題' link is circled in orange, and an arrow points to it from a blue box labeled '入学試験情報'. Below the navigation bar, the breadcrumb path is 'ホーム > 大学院入試情報 > 過去の入試問題'. The main heading is 'For Graduates' with the subtitle '大学院入試情報'. At the bottom, there is a '過去の入試問題' button and a large 'Past Test' text.

Quick Link

MyWaseda お問い合わせ サイトマップ 寄付 アクセス データ集 検索 Language

Admissions Center
早稲田大学 入学センター

ニュース News イベント Events 学部入試情報 For Undergraduates 大学院入試情報 For Graduates その他の入試情報

過去の入試問題

入学試験情報

過去の入試問題

Past Test

【よくあるご質問】



◇冬期入試はおこなわれないのですか。

〔答〕 9月入試のみの予定です。

◇これまで横断的研究に馴染みがないのですが、外部から入学した場合、大学院の授業に適應できるでしょうか。

〔答〕 指導する側として出身校による違いは感じられません。副指導員制度もあるため、馴染みやすいのではないのでしょうか。外部から入学した学生数は少なくありません。学生さん同士が情報交換しながら、問題なく授業についていけると 생각합니다。また、留学生や外部からの進学者のみなさんが豊かな学術環境を作ってくださっていると感じています。

◇現代文芸コースに進学するにあたり、参考となる教科書をいくつか教えてほしいのですが。

〔答〕 教科書として特に共通したものではありませんが、強いて言えば、理論書を読むより、文学史を読みつつ、古典とされる文学作品に広く親しんでほしいと思います。また修士の授業についてお知りになりたい場合は、HPの教員紹介の頁に各教員が担当する科目のシラバスが公開されていますので、そちらを参考になさってください。

【よくあるご質問】

◇入学後、修士論文の研究テーマが変わっても大丈夫ですか。

〔答〕 問題はないです。むしろ、入学後に学び、新たな分野に触れることで、軸はぶれなくても、研究内容が変化する事のほうが多いと思います。

◇大学院を事前に訪問することはできないですか。

〔答〕 入試前に先生に直接会いに来ることは、入試の公正性という観点から避けてほしいのですが、雰囲気を感じるために助手や講師が在室する現代文芸コース室を訪問することは可能です。

戸山キャンパス 33号館 7階 704号室

開室時間： 月～金 12：00 - 16：00



ご静聴ありがとうございました！

